

オナニーをするのは、初めてのことではありません。けれど、

「こ、こんな、揉むだけでこんなに気持ちいいの……んああ、なんでえ……んっ、くうう、ふっ……」

今までとは比べ物にならない興奮と、快感に困惑してしまいます。

その理由はきっと、

「ご主人様あ……ん、ふああっ、あっあっあっ、ああっ……！」

奴隷でありながら、大切なご主人様の隣でこっそりとオナニーをしている……その背徳感が、興奮を高めていて。

「ち、乳首は……ふあああっ……♡」

きゅっと乳首をつねると、全身に電流が走りました。大きな声が出てしまい、とっさに、動きを止めます。

「すー……すー……」

ご主人様は、安らかな寝息を立てたまま。どうやら、大丈夫だったようです。

(こんな危ないこと、すぐにやめなきゃ……)

そう、頭では分かっているのに。乳首をいじる指の動きを、止めることが出来ません。

「ふっ、ふっ、ふああ……気持ち、気持ちいい……んくっ、んっ、んああああ……！」

シーツを噛みながら、必死に声を抑えます。ビクビクと背中を震わせながら、おっぱいを揉み、乳首をコリコリといじめます。

「あっ、ああっ、ふーっ、ふーっ、だめ、気持ちいい……んああ、ダメ、ダメダメ、っっうううう～～！」

声にならない呻きを上げながら、軽い絶頂に身体を震わせます。頭の中が、気持ちいい一色に染まって、何も考えられなくなっていきます。

（もう、私のおまんこ……ぐちゅぐちゅになってる……）

触るまでもなく、分かってしまいます。私のそこからは愛液がしたり、太ももを濡らしていました。

（ここ触ったら……声、我慢できないかも……）

恐る恐る、私は自分のおまんこに、軽く指を這わせました。



「はうっっっっ……〜〜〜〜♡♡」

とっさに、声を押し殺します。少し触れただけなのに、快感が脳天まで突き抜けるような衝撃がありました。

「こ、これだめ、こんな気持ちいいの、止められないです……あっ、んう、あああ、っふ、っふ、あああ……！」

おまんこの溝に沿うようにして、指を上下に動かします。優しく撫でるだけの動きでも刺激が強くて、全身をガクガクと震わせてしま
います。

「あっ、あっあっあっ、んぐっ、ぐっ、ふうっ……んん〜〜〜〜！♡」

細かい絶頂の波が何度も、何度も押し寄せて、目の前がチカチカしてきました。

「んっ、んっ、んんっ、ふっ、っ、ふっ、あ、ああ、気持ちいい、気持ちいい……んっ、んああ、ふあああ……♡」

少し大きめの波が来たところで、「は一、は一」と息を整えます。オナニーをやめるなら、このタイミングです。でも、

「ご主人様ぁ……ご主人様ぁ……♡」

ご主人様の身体に、顔をうずめるとすごくいい匂いがして……私はまた、指を動かし始めてしまいます。

私はついに、濡れたおまんこの中に、中指を入れて動かし始めました。